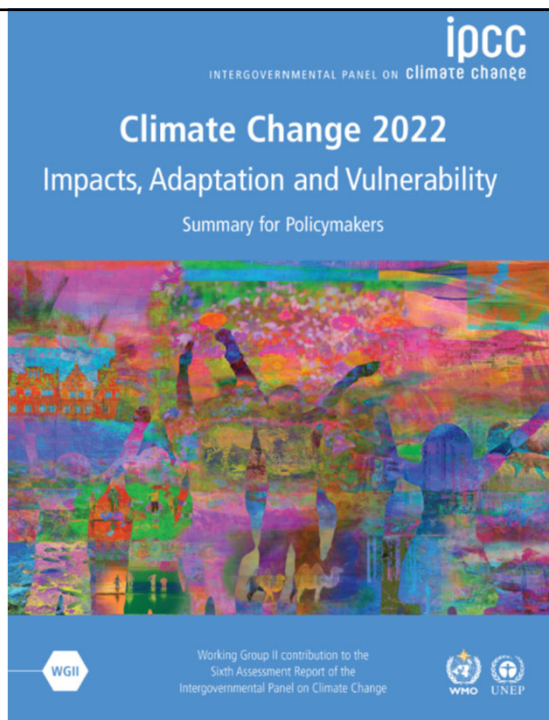


気候変動と健康

橋爪真弘

東京大学大学院 医学系研究科
国際保健政策学

令和4年3月13日 日本学術会議 学術フォーラム



数字で見る報告書： 第2作業部会『影響・適応・脆弱性』



執筆者270人



67か国



開発途上国 43%
先進国 57%



41%女性、59%男性



執筆協力者675人



引用論文34,000以上



査読コメント62,418

Growing scientific
knowledge gives us our
best understanding yet

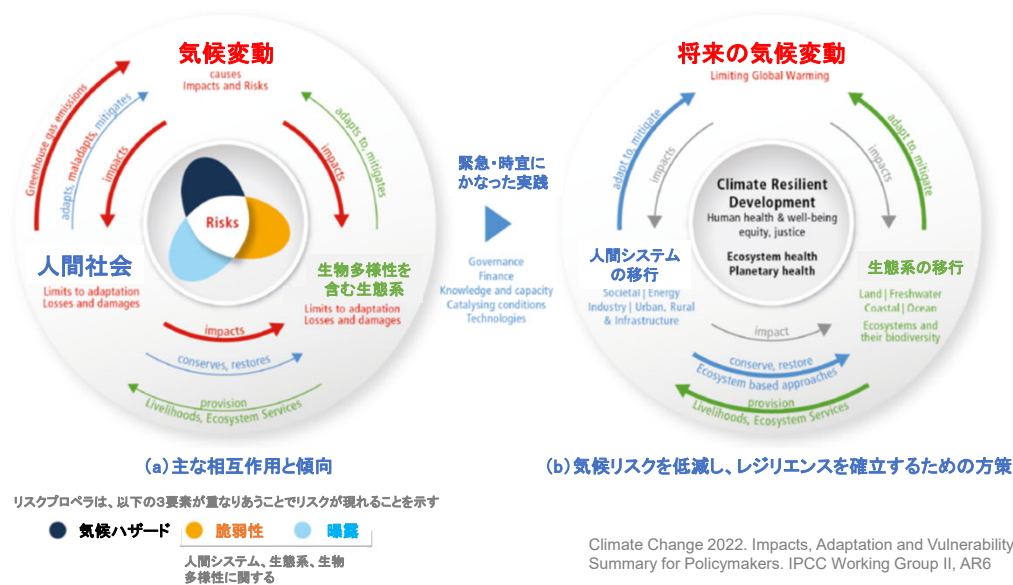
Climate Change 2022: Impacts, Adaptation and Vulnerability
Co-Chairs of IPCC Working Group II

第6次評価報告書の特徴（私見）

1. 自然科学や生態学、社会科学、経済学の知識を統合
2. 温暖化1.5°Cの影響をより焦点化
3. 適応策の重要性、同時に適応策の限界と失敗の回避について言及
4. 『気候にレジリエントな開発』を提言

3

気候リスクから気候にレジリエントな開発へ



4

観測された影響、予測されるリスク

1. 観測された影響

人為起源の気候変動が、極端現象の頻度と強度を増し、自然の気候変動の範囲を超えて広範囲にわたり悪影響と損失や損害を引き起こしている。

2. 生態系と人間の脆弱性

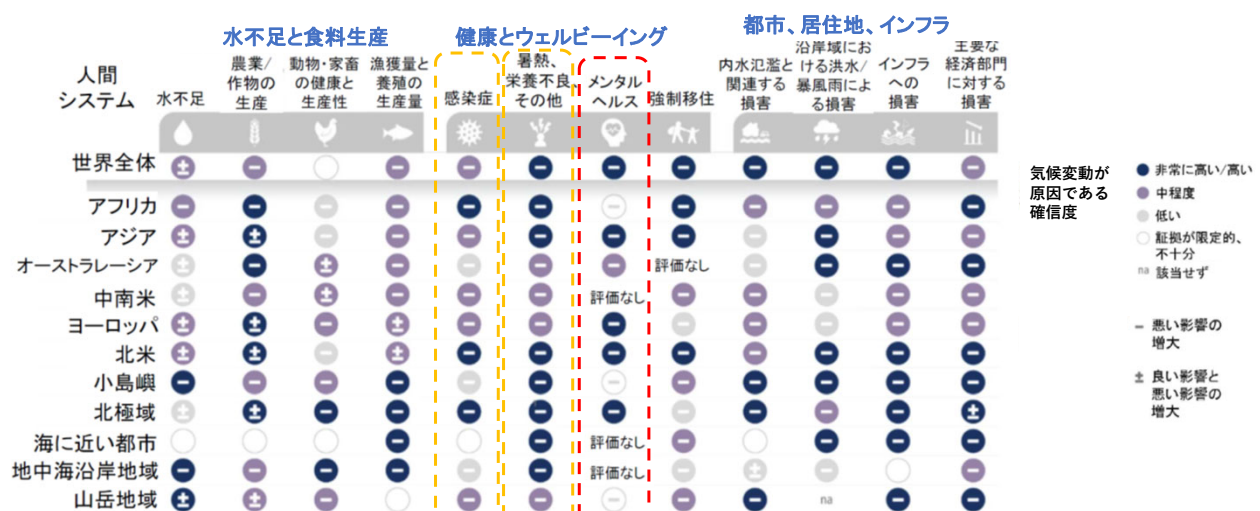
気候変動に対する生態系、人間の脆弱性は地域などにより大幅に異なる。およそ33～36億人が気候変動に対して非常に脆弱な状況で生活している。

3. 短期的・中長期的リスク

近い将来、地球温暖化は1.5℃に達する。複数の気候災害が不可避免的に増加し、生態系と人間に複数のリスクをもたらす。2040年より先、温暖化のレベルに応じて自然と人間のシステムにおびただしいリスクをもたらす。

5

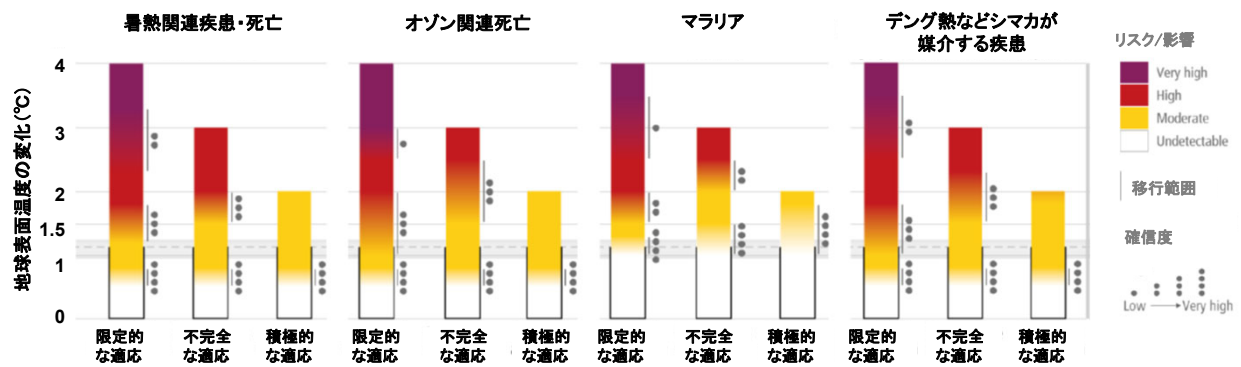
人間システムにおいて観測された気候変動影響



IPCC AR6/WG2報告書 政策決定者向け要約 (SPM) 概要 <http://www.env.go.jp/press/110599.html> 著者一部改変

6

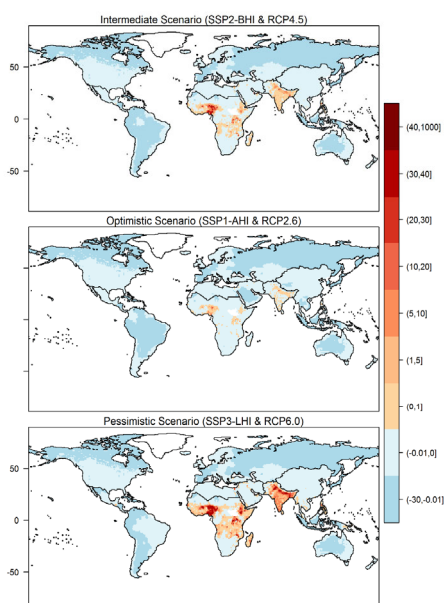
地球温暖化レベルの上昇によるリスク



Climate Change 2022. Impacts, Adaptation and Vulnerability. Summary for Policymakers. IPCC Working Group II, AR6

7

温暖化に伴う下痢症による過剰死亡者数



2080-2095年

中間的気温上昇シナリオ

約3.0万人 (95%予測区間 2.5万; 3.4万)

楽観的気温上昇シナリオ

約0.6万人 (95%予測区間 0.5万; 0.8万)

悲観的気温上昇シナリオ

約8.4万人 (95%予測区間 6.8万; 10.0万)

主に、サハラ砂漠以南アフリカと南アジア

Chua PLC, Huber V, Ng CFS, Seposo X, Madaniyazi L, Hales S, Woodward A, Hashizume M. *Lancet Planetary Health*. 2021;5(7), e436-e445.

8

適応策とそれを可能にする条件

1. 現在の適応とその効果

少なくとも170の国と地域が適応策を気候政策に盛り込んだ。しかし、多くは即時的、短期的な気候リスクの低減を優先しているため変革的な適応は少ない。

2. 適応の限界

人間システムの適応にはソフトな限界に達しているものもあるが、財政、ガバナンス、政策等により克服可能。沿岸湿地、熱帯雨林など、一部の生態系はハードな適応限界に達している。

3. 適応の失敗の回避

多くの分野、地域で適応の失敗例が増えている。多くの分野に便益のある適応策を柔軟、横断的に長期に実施することで適応の失敗は回避できる。

4. 可能にする条件

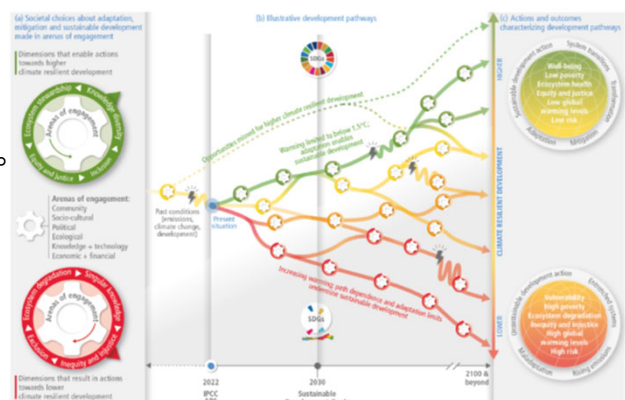
政治的コミットメント、制度的枠組み、財源の確保、モニタリングと評価、ガバナンスなどが条件となる。適応とSDGsにはシナジー（とトレードオフ）がある。



Climate Change 2022. Impacts, Adaptation and Vulnerability. Summary for Policymakers. IPCC Working Group II, AR6

気候にレジリエントな開発 (Climate Resilient Development)

1. 気候変動リスクの管理と持続可能な開発の達成に向けたプロセス
2. CRDに向かう道のりは多様であり、社会の選択の積み重ねにより決まる。
3. 生物多様性や生態系の保護は、CRDに必須である。
4. 今後10年間の社会の選択と実践により将来の開発がどの程度レジリエントになるか決まる。



Climate Change 2022. Impacts, Adaptation and Vulnerability. Summary for Policymakers. IPCC Working Group II, AR6



11